

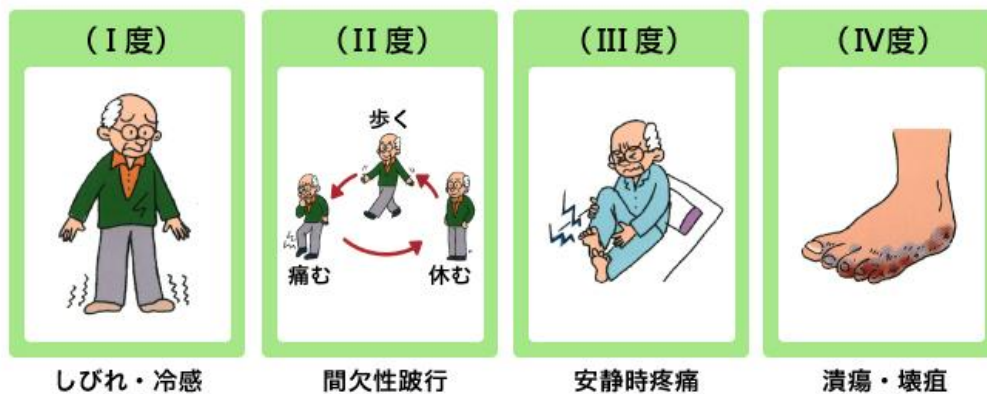
週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると動脈硬化が進行する危険性があり、心臓の血管に動脈硬化がおきると心筋梗塞を^{こうそく}発症し、命にかかわる事態になる事を知ってもらいましたね。じつは、当然のことながら心臓以外の血管が動脈硬化をおこす可能性もあります。そこで、今回は手や足の動脈硬化による病気を紹介します。

手足の血管が動脈硬化をおこすと血液が行き渡らなくなります。すると、しびれや冷たさを感じたり、歩くと痛みが出たりするそうです。さらに進行すると安静時にも痛みだし、ついには皮膚が壊死する場合もあるのです。この病気は「閉塞性動脈硬化症」と呼ばれ^{へいそく}高齢者に多く発症し、下図のように症状が悪化していき写真のような状態になる人もいます。

図2. 閉塞性動脈硬化症の重症度分類

「閉塞性動脈硬化症診療の手引き」 協和企画 2000年



薬物療法など従来の治療法に効果が見られない閉塞性動脈硬化症やバージャー病で、Fontaine分類でIII度、IV度の場合、先進医療としての血管新生療法が適応される

先進医療.net から

(資料提供：信州大学医学部附属病院循環器科の池田宇一教授)



おおかど循環器科クリニックHPから

また、同じような症状の「閉塞性血栓血管炎」(バージャー病)と呼ばれる病気もあり、20~40歳を中心に多く発症しているそうです。国内の患者数は約一万人と推計されていて特定疾患に指定されている難病のひとつです。

どちらの病気も発症には喫煙が深く関係していると言われています。実際、患者のほとんどが喫煙経験者だそうです。そして、その治療の基本は“禁煙”で、タバコを吸い続けていてはどんな治療も無効だと解説されています。

タバコを吸い続けると手足にこんな症状が現れるなんて想像できないでしょう。でも、タバコのせいで血管が詰まってしまう事を知っていれば理解できますよね。

産業デザイン科 奥田 恭久